

ロームシアター京都 2023 年度(令和 5 年度) 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2023 年 3 月 1 日 報道発表資料

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：松本、山形

電話：075-771-6051（10:00～17:00） FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekkyoto.jp <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

ロームシアター京都 2023 年度 自主事業ラインアップ

作品創造	Sound Around 003.....3
	プレイ！シアター in Summer 2023 ステージプログラム アンディ・マンリー 新作公演4
	レパートリーの創造 高谷史郎（ダムタイプ）新作パフォーマンス公演5
	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XX モーツァルト 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」6
	レパートリー作品 木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」2023 年ツアー7
伝統芸能の継承	市民寄席8
	第 72 回京都薪能 一安寧を願い巡る京都の九寺社一9
	能の世界へおこしやす 一京都薪能鑑賞のための公開講座一
	能楽チャリティ公演 ～祈りよとどけ、京都より～10
	芸能の在る処～伝統芸能入門講座～
	《継承と創造》金剛流能「石橋 和合連獅子」11
ロームシアター京都 セレクション	劇艶おとな団プロデュース「9 人の迷える沖縄人～after'72～」12
	シス・カンパニー公演「帰ってきたマイ・ブラザー」13
	バラ色ダンス 純粋性愛批判14
	goat 10 years anniversary スペシャルライブ
	太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）「金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima」15
	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 202316
	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース 桑原裕子作・演出 新作17
	ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”
	2023 年度参加アーティスト ①劇団不労社 ② PANCETTA18
	ディミトリス・パパイオアヌー「INK」20
ラーニング	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023「魔笛」21
	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XX 子どものためのオペラ 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」より
	劇場の学校22
	ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 -23
	リサーチプログラム
コミュニティ	ホリデーパフォーマンス24
	プレイ！シアター in Summer 2023 オープンデイ25
	プレイ！シアター in Summer 2023 オープンデイ 京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート
	ロームシアター京都×京都市文化会館 5 館連携事業「シアターデビュー！」促進プログラム26
	OKAZAKI PARK STAGE 2023
	リージョナルシアター事業27
	“いま”を考えるトークシリーズ
	WEB マガジン「Spin-Off（スピノフ）」
	機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」
	アセンブリープログラム28
	音楽総合体験施設 ミュージックサロン
	アクセシビリティ情報29

Ⅰ 2023 年度自主事業の企画にあたって

2023 年度自主事業ラインアップテーマ

出会いの旅路、その交点

「劇場文化をつくる」をミッションに掲げ、ロームシアター京都がリニューアルオープンして、7 年が過ぎました。自らが掲げた「劇場文化をつくる」とは、具体的に何を指すのか、「劇場文化」という言葉の定義は何なのか。多様な事業と劇場運営を通して、これらの問いを、アーティストや観客など、関わる人々と議論し試行錯誤しているのではないかと考えています。輪郭やイメージはありつつも、はっきりとした定義が難しいということが、このミッションの重要性、大きさを物語っているのかもしれませんが、また、「つくる」という部分にも注目してみると、「劇場文化」はすでに確立したもの、存在するものを維持するのではなく、これからつくっていくものだと再認識できます。それぞれが考え、更新される目標に向けて、新たな劇場を核としたコミュニティを模索し、劇場の役割を拡張し続けること。私たちは、常にこの旅の途上にあり、その道のりでの出会いや交わりの空間 / 時間をみなさんと共にしていきます。

2023 年度の自主事業ラインアップテーマは、「出会いの旅路、その交点」としています。プログラムには、「さまざまな時代 / 地域 / ジャンル」で紡がれてきた文化や先人の表現を踏まえた歴史性に根差した視点と、そこから飛躍した現代的な視点が交わり、同居する舞台が揃いました。

劇場の財産となる作品をプロデュースするシリーズ「レパートリーの創造」では、第 59 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展でも話題を呼んだダムタイプのコアメンバー、高谷史郎による新作を発表します。移ろいゆく自然現象にアプローチし、相反するものが共存する日常の中の非日常を描き出します。2021 年の中止を経てついに実現するのが、太陽劇団 22 年ぶりの来日公演です。日本の伝統芸能をリサーチし参照すると同時に、夢の中の日本にある架空の島「金夢島（かねむじま）」を舞台に、現代の諸問題を浮き彫りにします。川口隆夫らによる『バラ色ダンス 純粋性愛批判』では、舞踏におけるエポックメイキングな作品を再解釈し、クリティカルな検証を仕掛けます。そのほか、古今東西の文化からインスパイアを得ながら、それぞれ独自の考えや技術の編み直しを試みる作品たちが登場します。また、ロームシアター京都のプロデュース作品が各地の劇場へ飛び立つ機会や、他分野との協働が増えています。各所で生まれるこれらのネットワークをコミュニティへと発展させるべく、より密接な関係を築いていくことを目指します。

また作品が創作される背景やプロセス（＝旅路）を、上演に加えて、展示やトーク、上映会を実施することで観客と共有します。劇場というプラットフォームに「さまざまな時代 / 地域 / ジャンル」で育まれた知恵や技術を放り込むことで、多くの交点、舞台芸術との刺激的で豊かな出会いを生み出します。特にラーニング、コミュニティといった育成や普及を目的とした事業においては、その学びや体験そのものがそれぞれの人生と交差する場となりえます。ゴールを目指して一直線に進むだけではない、寄り道や遠回りをするなかで遭遇する出来事や人との交点から、複雑化する世界、そして、この困難な時代を生き抜く術が見つかるかもしれません。

現在でも、新型コロナウイルス感染症流行の影響が長く続いていますが、観客との関係をあきらめないアーティストたちとの協働によって、プログラムを展開してまいります。2022 年度のラインアップテーマ「旅」に続く、2023 年度もぜひロームシアター京都の活動にご注目いただけたら幸いです。

2023 年 3 月
プログラムディレクター 小倉由佳子

I 2023 年度自主事業ラインアップ 6つの事業カテゴリー

①作品創造

劇場の財産となる作品のプロデュースや国内外のアーティストとの協働により、ロームシアター京都を創造の場として活かした事業を展開します。

②京響プログラム

ロームシアター京都は京都市交響楽団の第2のフランチャイズホールです。音楽のみならず他ジャンルとのコラボレーションなどで京響の新たな魅力を広げます。

③伝統芸能の継承

日本舞踊、能楽、文楽、雅楽といった古典芸能に加え、地域ごと継がれてきた民俗（郷土）芸能を独自の切り口で紹介し、伝統芸能の面白さを伝えます。

④ロームシアター京都セレクション

国内外からの選りすぐりの舞台芸術作品をご紹介します。次代を担う若手アーティストの創造支援や KYOTO EXPERIMENT などさまざまな施設や団体と連携して行うプログラムもあります。

⑤ラーニング

小中高生、それぞれの年代に応じた育成事業を展開するほか、舞台芸術に関わるレクチャーやリサーチを創作・実践の場と連動して行います。

⑥コミュニティ

多様なライフスタイルと密着したプログラムや、ホールを飛び出して行う事業などを通して、京都・岡崎地域の施設や団体と連携を深め、地域の活性化に繋がります。

I アクセシビリティ

ロームシアター京都ではお客様の観劇に際して、観劇サポートを実施しております。

詳細は p.29 を参照ください。

音声ガイド：  ポータブル字幕機：  ヒアリンググループ：  託児サービス： 

I 事業課メンバー紹介

プログラムディレクター



小倉由佳子 Yukako Ogura

ロームシアター京都プログラムディレクター、事業課長。2008年～2013年、アイホール（伊丹市立演劇ホール）ディレクターとして、同劇場の主にダンスプログラムの公演、ワークショップを企画制作。2016年4月よりロームシアター京都勤務、2021年4月より現職。

ロームシアター京都 事業課



写真：山地憲太

<メンバー（2023年3月現在）>

木原里佳、齋藤啓、里見明音、寺田貴美子、枡谷雄一郎、松本花音、山形ゆき

Sound Around 003

主 催

音樂



日程：6月24日（土）、25日（日）全2回公演
会場：ノースホール

シリーズ第3弾は「作曲」をテーマに、関西音楽シーンの注目株が登場！

ジャンルや固定観念にとらわれない「音楽」を軸とした表現活動を行うアーティストによるパフォーマンスを紹介するシリーズの第3弾。今回は演奏家のみならず作曲家としても活躍目覚ましい日野浩志郎をメインアーティストに迎え、「作曲」という行為そして形式に着目し、打楽器を中心に構成した新曲を作曲・発表します。

コラボレーションアーティストにはダムタイプや坂本龍一などのプロジェクトにも参加している古舘健が参加。両者の興味関心を交錯させ、かつ既知の作曲手法や技術も参照・引用しながら、スコアと演奏者の関係性の問い直しなど、作曲における新たなアプローチを模索します。ロームシアター京都で初めて本格的に取り組む「作曲」というテーマについて、アーティストと観客がともに考えを深める機会を創出します。

メインアーティスト・構成・出演：日野浩志郎

コラボレーションアーティスト：古舘健 ほか

音響：西川文章



photo by Dai Fujimura

日野浩志郎 Koshiro Hino

音楽家、作曲家。1985年生まれ、島根県出身。現在は大阪を拠点に活動。メロディ楽器も打楽器として使い、複数拍子を組み合わせた作曲などをバンド編成で試みる「goat」や、そのノイズ／ハードコア的解釈のバンド「bonanzas」、電子音楽ソロプロジェクト「YPY」等を行っており、そのアウトプットの方向性はダンスミュージックや前衛的コラージュ／ノイズと多岐に渡る。これまでの主な作曲作品は、クラシック楽器や電子音を融合させたハイブリッドオーケストラ「Virginal Variations」、多数のスピーカーや移動する演奏者を混じえた全身聴覚ライブ「GEIST(ガイスト)」の他、サウンドアーティスト FUJIIIIIIIIIIITA と共に作曲・演奏した作品「INTERDIFFUSION A tribute to Yoshi Wada」等。2021年には、延べ1ヶ月に及ぶ佐渡島での滞在制作で書き下ろした89分の楽曲群を芸能太鼓集団「鼓童」が演奏し、豊田利晃監督が撮影、映像化した音楽映画「戦慄せしめよ /Shiver」が公開された。



摄影：桜木美幸

古舘健 Ken Furudate

1981 年生まれ。京都在住。アーティスト／エンジニア／ミュージシャン。サインウェーブ、パルス、ドット、直線などプリミティブな素材の持つ特性を重ね合わせることで、複雑な現象を導き出すような AV パフォーマンス、インスタレーションなどを制作。2002 年より観客参加型のサウンド・アート・プロジェクト「The SINE WAVE ORCHESTRA」を他 3 人のメンバーとともに主催。2014 年よりアーティストコレクティブ「Dumb Type」に参加。Dumb Type として、59 回ベニスビエンナーレ、日本館にて作品「2022」を発表(2022)。2015 年より西陣織の織元である細尾とコラボレーションを開始、2019 年にプロジェクト「Quasicrystal」を立ち上げ、ジェネラティブアートの手法を用いた新しい西陣織を作り上げた。他、エンジニアとして様々な作家の制作に参加している。2021 年より DJ としても活動。

<http://ekran.jp/kf>

チケット情報

全席自由

一般 2,500 円、ユース（25 歳以下）1,500 円、18 歳以下 1,000 円

[4月15日(土)一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

**プレイ！シアター in Summer 2023 ステージプログラム
アンディ・マンリー 新作公演**

主催

演劇

日程：7月中旬

会場：ノースホール



© Mihaela Bodlovic

プレイ！シアター in Summer 2019 ステージプログラムにて「スティック・バイ・ミー〜ぼくのたいせつでヘンテコなともだち〜」を上演し好評を博したスコットランドのアーティスト、アンディ・マンリーによるこども（対象年齢3～6歳）向けの新作公演。鳥のさえずりや歌をモチーフに創作した、おとなとこどもで楽しめるノンバーバル作品。

アンディ・マンリー Andy Manley

若い観客のためのパフォーマンスを専門とする、舞台アーティスト。2006年より自身の作品を創作し、以降世界中で多数の公演を行う。2011年には『ホホワイト』にてUK Theatre Awards / 子供と若者のためのベストショーを受賞するなど、高い評価を受けている。日本では、世界中で伝説的なヒット作となった『ホホワイト』や『ナイトライト』をりっかりっか＊フェスタ（国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ）等で上演している。

チケット情報

全席自由

おとな 1,800 円、こども（0～18歳）500 円、こども＋おとなペア 2,000 円（枚数限定）

[5月13日（土）一般発売開始]

企画制作・共同製作：ロームシアター京都、一般社団法人エーシーオー沖縄

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

特別協賛：ローム株式会社

<他地域での公演>

北九州公演 7月21日（金）北九州芸術劇場

那覇公演 7月24日（月）～26日（水）りっかりっか＊フェスタ 那覇文化芸術劇場 なはーと

山口公演 7月30日（日）山口情報芸術センター

<関連企画>

プレイ！シアター in Summer 2023 オープンディ

日程：8月11日（金・祝）～13日（日）、16日（水）、17日（木）

→ P.25 参照

レパートリーの創造

高谷史郎（ダムタイプ）
新作パフォーマンス公演

主催

美術・映像



日程：2024年2月9日（金）～12日（月・祝）

会場：サウスホール



「明るい部屋」 photo: Kazuo Fukunaga

高谷史郎（ダムタイプ）による8年ぶりの新作舞台作品をプロデュース

ダムタイプのコアメンバーとして活躍し、パフォーマンスシーンに新たな可能性を開拓したメディア・アーティスト高谷史郎。ロームシアター京都が2017年度から取り組んでいるシリーズ「レパートリーの創造」で、満を持しての新作を発表します。

高谷史郎個人名義でのパフォーミングアーツ作品としては、「ST/LL」（2015年初演）以来の待望の新作となります。「Liminal Space（リミナルスペース）」と称した、「日常の中の非日常」「2つの相反する要素が両立している奇妙な空間」を作品テーマの中心に据えて創作を行います。芸術と科学、そしてそれらとテクノロジーの関係をベースとしながら、美術と舞台芸術のボーダーを軽やかに超えた、静謐で美しくかつドラマティックな舞台芸術作品が誕生します。

総合ディレクション：高谷史郎

照明：吉本有輝子

テクニカルコラポレーター：濱哲史、白石晃一、古舘健

舞台監督：大鹿展明



高谷史郎 Shiro Takatani

1963年生まれ。1984年からアーティスト・グループ「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンター等で公演／展示を行う。また、中谷芙二子、坂本龍一、野村萬斎、十五代樂吉左衛門・樂直入らとのコラボレーション作品も多数。

■ クリエーションに際して行った高谷史郎インタビューをWEBマガジン「Spin-Off」に掲載しています。

前編 https://rohmtheatrekyoto.jp/archives/interview_takatani_1/後編 https://rohmtheatrekyoto.jp/archives/interview_takatani_2/

チケット情報

全席指定

一般（1階席）：5,000円、一般（2階席）：4,000円、ユース（25歳以下）：2,500円、18歳以下：1,000円

[10月14日（土）一般発売開始]

<関連企画>

高谷史郎映像作品の上映会

日程：10月初旬

会場：ロームシアター京都

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XX
モーツァルト 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」
ROHM CLASSIC SPECIAL

日程：2024年3月15日（金）、17日（日）
全2回公演
会場：メインホール

主催

音楽



2014年兵庫県立芸術文化センター 初演時のもの



ディエゴ・マテウス

記念すべき20回目となる2024年のオペラ・プロジェクトは、モーツァルトによる歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」を上演します。「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」に続き、モーツァルト&ダ・ポンテの名コンビによる最後の作品で、2組のカップルが織りなす男女の駆け引きを、豊かなアンサンブルで綴ります。

2023年のオペラ・プロジェクト XIX プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」に続き、演出はデイヴィッド・ニース、装置・衣装デザインはロバート・パージオーラ。プロダクションは、2014年に兵庫県立芸術文化センターで初演されたものを使用します。

指揮は小澤征爾音楽塾首席指揮者のディエゴ・マテウス。日本をはじめアジア各国からオーディションを経て選出され、サイトウ・キネン・オーケストラメンバーらの熱い指導を受けて大きく成長する小澤征爾音楽塾オーケストラが演奏を務めます。

小澤征爾音楽塾で「コジ・ファン・トゥッテ」を上演するのは2001年以来、23年ぶりとなります。お見逃しなく！

音楽監督：小澤征爾

指揮：ディエゴ・マテウス（小澤征爾音楽塾首席指揮者）

演出：デイヴィッド・ニース

装置・衣装デザイン：ロバート・パージオーラ

管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ

ほか



© Shintaro Shiratori

小澤征爾音楽塾とは

小澤征爾音楽塾は、ローム株式会社の佐藤研一郎社長（当時）と小澤征爾がオペラを通じて若い音楽家を育成することを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトです。恩師カラヤンの教えである「交響曲とオペラは車の両輪のようなもの」を持論とする小澤が「教えること」に生涯を捧げたもう一人の恩師斎藤秀雄のスピリットを受け継ぎ、若い音楽家たちとともに学ぶ場として開催しています。毎年、国内外でのオーディションで選ばれたアジア諸国（日本、中国、台湾、韓国）の若い音楽家たちでオーケストラを結成し、小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラメンバーをはじめとする演奏家のもとで指導を受け、分奏や歌手とのリハーサルを重ねながら、世界の歌劇場で活躍するオペラ歌手や演出家と共に高水準のオペラ「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」を創り上げます。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン
京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協賛：ローム株式会社

企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

ロームシアター京都 レポートリー作品
木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」
2023 年ツアー

演劇

日程：5～7月

会場：KAAT 神奈川芸術劇場、北上市文化交流センター
さくらホール、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、
北九州芸術劇場、滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

© 東直子

剥き出しで、生きる一。

古来より脈々と語り継がれてきた名曲・物語を更新し、いまふたたび現代へリリースする音楽劇が、
神奈川・岩手・愛知・福岡・滋賀で三度目の上演。

2019年にロームシアター京都 レポートリー作品として製作、2020年に再演された「糸井版 摂州合邦辻」。説経節「しんとく丸」「愛護の若」や能「弱法師」などを元にした浄瑠璃作品「摂州合邦辻」を、“いま語り継ぐべき物語”として、糸井幸之介と木ノ下裕一が上演台本を共同執筆、再構成した話題作です。

古来より日本人が持つ死生観、聖俗への恐れ、都市の姿とそこで生きる人々の剥き出しの「生」……、二人は原作のもつ世界観を根本から読み解き、新たに創作するシーンも融合させていながら、壮大なスケール感をもって観客を新たな物語の世界へと跳躍させます。古典と現代が往来し観客が「いま」と出会い直していく舞台は、古典を現代に呼び覚ます“運動”を続ける木ノ下歌舞伎の一つの到達点と言えるでしょう。

今回、2020年バージョンのキャストがふたたび集結し、都市に生きる人々の「生」を露わに映し出します。

作：菅専助、若竹笛躬

監修・補綴・上演台本：木ノ下裕一

上演台本・演出・音楽：糸井幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）

音楽監修：manzo

振付：北尾亘

出演：内田慈、土屋神葉、谷山知宏、永島敬三、永井茉莉奈、飛田大輔、石田迪子、山森大輔、伊東沙保、西田夏奈子、武谷公雄

<「糸井版 摂州合邦辻」上演歴>

[初演] 2019年2月 ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場

[再演] 2020年10～11月 ロームシアター京都、あうるすぽっと（東京）

企画制作：ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎

製作：ロームシアター京都

共同製作：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場

<他地域での公演>

神奈川・横浜公演 5月26日（金）～6月4日（日）KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

岩手・北上公演 6月10日（土）北上市文化交流センター さくらホール 中ホール

愛知・豊橋公演 6月14日（水）穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

福岡・北九州公演 6月25日（日）北九州芸術劇場 中劇場

滋賀・大津公演 7月1日（土）滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホール

市民寄席

主催

演劇



(託児は第 367、369 回のみ実施)

会場：サウスホール



口上 撮影：佐々木卓男

1957 年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。

幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。



第 365 回市民寄席

2023 年 5 月 23 日（火）19:00 開演

【番組】

「御公家女房」 桂 九ノ一

「過去のないワイン」 桂 三四郎

「お見立て」 笑福亭 円笑

「ねずみ穴」 桂 福団治

第 366 回 日程：7 月 25 日（火）19:00 開演

第 367 回 日程：9 月 24 日（日）13:30 開演

第 368 回 日程：11 月 14 日（火）19:00 開演

第 369 回 日程：2024 年 1 月 14 日（日）13:30 開演

チケット情報

全席指定

第 365 回、第 366 回、第 368 回：前売 1,800 円、当日 2,000 円、ユース（25 歳以下）1,500 円

第 367 回、第 369 回：前売 2,300 円、当日 2,500 円、ユース（25 歳以下）1,500 円

年間席札：8,000 円＜完売＞、ユース（25 歳以下）6,000 円

[第 365 回：3 月 18 日（土）一般発売開始]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

<関連企画>

プレイ！シアター in Summer 2023 オープンデー

こども市民寄席

日程：8 月 12 日（土）

→ P.25 参照

第 72 回京都薪能

— 安寧を願い巡る京都の九寺社 —

共催

演劇

日程：6月1日（木）、2日（金）両日 18:00 開演

会場：平安神宮特設能舞台 ※雨天の場合はメインホール



能の普及と発展をめざして毎年開催され、今や京都の初夏の風物詩となっております。夕闇の中で篝火が焚かれ、平安神宮の朱塗りの社殿が映し出されるなか、特設の能舞台が闇夜に浮かび上がり、幻想的な雰囲気さが辺りを包みます。観世・金剛・大蔵の各流派による能や狂言が楽しめるという豪華なもので、例年京都はもとより国内外からも多くの観客が来場され、幽玄の世界に酔いしれます。

6月1日（木）

観世流能「賀茂」（シテ）深野貴彦

金剛流能「熊野」（シテ）金剛永謹

大蔵流狂言「鬼瓦」（シテ）茂山七五三

観世流能「舍利」（前シテ）河村浩太郎（後シテ）大江広祐

6月2日（金）

金剛流能「経正」（シテ）廣田幸稔

観世流能「百万」（シテ）味方玄

大蔵流狂言「石神」（シテ）茂山千五郎

観世流能「鉄輪」（前シテ）分林道治（後シテ）林宗一郎

チケット情報

前売指定席 7,000 円（席数限定）、前売自由席 4,000 円、学生前売自由席 3,000 円

前売自由席団体割引 3,600 円（15 名以上）

当日自由席 5,000 円（一般・学生共通）

※自由席は日にち指定制（両日共通券ではありません） ※未就学児入場不可 [4月15日（土）一般発売開始]

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能の世界へおこしやす

— 京都薪能鑑賞のための公開講座 —

主催

演劇

学び



日程：6月1日（木）、2日（金）

両日 14:00 開演

会場：メインホール



京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。午後6時から開催される“京都薪能”をご覧になる前に、午後2時からの無料レクチャー「能の世界へおこしやす」にどうぞお越しください。

出演：京都薪能出演能楽師

■ プログラム

・ 挨拶と能楽の解説

能楽師代表が挨拶、能と狂言について解説を行う。

・ 能「高砂」の謡と泣く型（シホリ）の体験

シテ方観世流またはシテ方金剛流の能楽師が、能「高砂」の待謡「高砂やこの浦船に帆をあげて」より「はや住之江に着きにけり」までを観客と共に謡い、また能の泣く演技である、手で涙を抑える所作＜シホリ＞も観客と共に行う。

・ 囃子と狂言の解説及び掛け声や笑う型の体験

能の囃子を代表する各役（能・小鼓・大鼓・太鼓）の能楽師が、各楽器の特長及び役割について説明し、囃子を代表して大鼓方の能楽師が鼓を打つ際の掛け声を観客と共に行う。

また、大蔵流狂言師が狂言の特徴及び役割について説明し、狂言の代表的な所作＜笑ヒ＞を観客と共に行う。

・ 舞囃子「嵐山」の解説と鑑賞

能「嵐山」のあらすじを説明し、その見どころを観世流または金剛流による舞囃子形式で上演することによって、それまでに体験した能の型や囃子の掛け声などを、実際に玄人の能楽師による舞台を通じて体感し、より深い能楽の魅力に迫る。

チケット情報

全席自由 無料、申込不要／お問合せは京都いつでもコール（075-661-3755）、ロームシアター京都（075-771-6051）

※未就学児入場不可

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能楽チャリティ公演
～祈りよとどけ、京都より～

共催

演劇



日程：8月24日（木）
第1部 10:30 開演／第2部 18:30 開演
会場：サウスホール



「雷電」



「葵上」

京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

【第1部】

能「敦盛」 シテ 河村和貴

狂言「蟹山伏」 シテ 茂山忠三郎

能「雷電」 シテ 橋本光史

【第2部】

能「胡蝶」 シテ 田茂井廣道

狂言「延命袋」 シテ 茂山茂

能「葵上 梓之出」 シテ 片山九郎右衛門

チケット情報

全席自由 1,500 円 [6月1日（木）一般発売開始]

主催：京都在籍能楽師有志

共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

芸能の在る処～伝統芸能入門講座～

主催

演劇

舞踊

学び



日程：① 11月16日（木）
② 11月17日（金）
③ 12月27日（水）
全回 18:00 開演
会場：ノースホール

木ノ下歌舞伎主宰で、古典芸能／伝統芸能に関する執筆、講座など多岐にわたる活動が注目されている木ノ下裕一氏を案内人とする伝統芸能入門講座を 2021、2022 年度に続き開講します。

2021 年度の人形浄瑠璃・文楽編／松竹新喜劇編／能楽編、2022 年度の歌舞伎編／京舞編／宝塚歌劇編に続き、2023 年度は狂言、落語、浪曲を取り上げます。

- ① 11月16日（木）開催 狂言編 登壇者：茂山千之丞（大蔵流狂言師）、横山太郎（立教大学現代心理学部映像身体学科教授）
- ② 11月17日（金）開催 落語編 登壇者：小佐田定雄（落語作家）、古川綾子（大阪樟蔭女子大学学芸学部国文学科准教授）
- ③ 12月27日（水）開催 浪曲編 登壇者：玉川奈々福（浪曲師・曲師）、真鍋昌賢（北九州市立大学文学部比較文化学科教授）



© 東直子

木ノ下裕一 Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎主宰

1985 年和歌山市生まれ。2006 年、京都造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『隅田川』『三人吉三』『糸井版 摂州合邦辻』『義経千本桜―渡海屋・大物浦―』など。2016 年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成 28 年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第 38 回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。令和 2 年度京都市芸術新人賞受賞。平成 29 年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎、神田伯山の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

チケット情報

全席自由 1,000 円（要事前申込）[申込開始日未定]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

《継承と創造》

しゃっきょう

金剛流能「石橋 和合連獅子」

主催

演劇



日時：2024年2月23日（金・祝）

1回公演

会場：サウスホール

能楽シテ方五流派のうち唯一京都に拠点を持つ金剛流の“舞”をフィーチャー

ロームシアター京都では、2017度より「シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能」において、能楽や文楽、雅楽などを新たな切り口で紹介してきました。また2021年度からは古典芸能に加え地域ごとに継承されてきた民俗芸能を含む「継承と創造」シリーズとして発展させ、『宮古・八重山・琉球の芸能』の魅力をお伝えしました。

今年度は能楽・金剛流の“舞”に注目いたします。金剛流は能楽シテ方五流派のひとつで、五流のうち京都に宗家が在住する唯一の流儀です。豪快でありながら華麗な芸風により「舞金剛（まいこんごう）」と称えられています。金剛流の“舞”を堪能いただけるプログラムにどうぞご期待ください。

出演：金剛流能楽師

企画協力：天野文雄（能楽研究／大阪大学名誉教授）



金剛流二十六世宗家 金剛 永謹 Hisanori Kongo

1951年、二十五世宗家金剛巖の長男として京都に生まれる。幼少より、父・金剛巖に師事。1998年9月 能楽金剛流二十六世宗家を継承する。2003年5月金剛能楽堂を京都御所の西向かいに移転、竣工。重要無形文化財総合認定保持者。「舞金剛」と呼ばれる華麗で躍動感溢れる金剛流独特の芸風に、「京金剛」といわれる優美で雅やかさが加わった芸風を特徴とし、シテ方五流宗家の中で唯一関西を本拠地とする。金剛流第一回の海外公演であるカナダ・アメリカ公演団長を皮切りに、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガル、ロシアなどでの海外公演も多数行う。京都市芸術新人賞、京都府文化賞新人賞、京都府文化賞功労賞受賞。京都市文化功労者表彰。第67回芸術選奨 文部科学大臣賞 受賞。2018年紫綬褒章受章。公益財団法人金剛能楽堂財団理事長。一般社団法人日本能楽会会長。一般社団法人金剛会 代表理事。京都市立芸術大学 客員教授。著書に『金剛家の面』、『金剛宗家の能面と能装束』がある。



金剛流 若宗家 金剛龍謹 Tatsunori Kongo

1988年、金剛流二十六世宗家金剛永謹の長男として京都に生まれる。幼少より、父・金剛永謹、祖父・二世金剛巖に師事。5歳で仕舞「猩々」にて初舞台。以後「石橋」「鷺」「翁」「乱」「道成寺」「望月」「安宅」など数々の大曲を披く。自らの芸の研鑽を第一に舞台を勤めながら、新作能などの既存の能の形にとらわれない新たな試みにも挑戦。また大学での講義や部活動の指導、各地の小中学校での巡回公演に参加するなど若い世代への普及に努める。自身の演能会「龍門之会」をはじめとして、全国、海外での数多くの公演に出演。同志社大学文学部卒業。京都市立芸術大学非常勤講師。公益財団法人 金剛能楽堂財団理事。京都市芸術新人賞、京都府文化賞奨励賞受賞。

チケット情報

席種・料金未定

[11月18日（土）チケット発売開始]

企画製作：ロームシアター京都

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

げきしよく

劇艶おとな団プロデュース

うちなーんちゅ

「9人の迷える沖縄人～after'72～」

共催

演劇

日程：5月20日(土)14:00開演/19:00開演
21日(日)14:00開演

会場：ノースホール



撮影：久高友昭

1972年の沖縄本土復帰に向き合う劇団の姿を通じ、
意見の異なる者たちの「対話」の重要性を描き高く評価された作品

2022年に沖縄は本土復帰50年の節目を迎えました。このたび、沖縄を拠点に活動する劇作家、演出、出演者により上演を重ね、昨年度の「CoRich 舞台芸術まつり！2022 春」のグランプリを受賞した作品の初の京都公演が、ロームシアター京都で実現します。

1972年の沖縄本土復帰を題材にした作品と向き合う現代の劇団の稽古風景を舞台に描かれる本作（2015年初演）は、復帰当時と現在を行き来する二重構造の物語を通し、過去と現在の沖縄に暮らす人々の多様で複雑な立場や心情を浮き彫りにしていきます。

それぞれの立場から、沖縄に対する想い、日本への想い、そして戦争、恒久平和への想い、いろいろな想いが交差する…。1972年、沖縄人は何を想い、何を願ったのか。現実社会では対話が困難な人々や意見を一つの舞台に乗せることにより、異なる意見の他者を理解し、「対立」でなく「対話」することの重要性を示す作品です。

出演：仲嶺雄作、國仲正也（鳩ス）、犬養憲子（芝居屋いぬかい）、
島袋寛之（TEAM SPOT JUMBLE）、当山彰一（劇艶おとな団）、宇座仁一（宮城元流能史之会）、上門みき、伊禮門綾（劇団綾船）、与那嶺圭一（TEAM SPOT JUMBLE）

作：安和学治、国吉誠一郎
演出：当山彰一
舞台監督：當山恵一（舞創造）
照明：稲嶺隆（沖縄舞台）
音響：安和学治
制作：島袋景子、土屋わかこ、新垣七奈

げきしよく

劇艶おとな団 Gekishokuotonadan

2011年、大人バンド結成ブームに刺激された演奏ができない大人達が集まり、ならば体と声を使って自分を表現しよう！と結成。主宰の当山彰一、安和朝彦、安和学治の3名で団員を集め「劇艶おとな団」を立ち上げ、同年6月にオリジナル脚本によるうちなー現代演劇「うちかび」を上演。カフェオーナー、不動産社長、カメラマン、県庁職員、会社員、郵便局員、俳優と、いろんな職種のメンバーから成る。「大人が夢を見、実現できなくちゃ、子どもと夢を語れない」と大人が本気になることこんなに素敵な事が出来る。2015年には制作会社として「一般社団法人おきなわ芸術文化の箱」を設立。2017年那覇市銘苅に小劇場スペース「銘苅ベース」を開設し、演劇を通してさまざまな活動を県内各地で行っている。沖縄を舞台にした全作品オリジナル脚本で、随所にうちなーぐちを取り入れた、うちなー現代芝居。子どもからお年寄りまで親子三代で観て楽しめる作品が特徴。「9人の迷える沖縄人」は同劇団の代表作。今回は、他劇団や伝統芸能、沖縄芝居で活躍する役者を客演に迎え、沖縄の芸術文化の多様性も発信する。

チケット情報

全席自由

一般前売 3,500 円、25 歳以下 2,000 円、18 歳以下 1,000 円

当日一般のみ +500 円

[3月20日(月)一般発売開始]

主催：（一社）おきなわ芸術文化の箱

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

協力：（一社）全国小劇場ネットワーク、那覇文化芸術劇場なはと

シス・カンパニー公演
「帰ってきたマイ・ブラザー」

共催

演劇

日程：6月29日（木）13:00 開演／18:00 開演
30日（金）13:00 開演
会場：メインホール水谷豊 × 段田安則 × 高橋克実 × 堤真一、
夢のヴォーカル・グループを結成！？

作：マギー、演出：小林顕作が仕掛けるのは、かつて大ヒット曲を放ちながら、あっという間に表舞台から姿を消した兄弟グループ“ブラザー 4 (フォー)”の物語。

今は別々の道を歩む4兄弟（水谷 × 段田 × 高橋 × 堤）だったが、なぜか令和の現代に、その存在が再び脚光を浴びることに!!
かつてのファン（峯村リエ・池谷のぶえ）やマネージャー（寺脇康文）も集まって、ついに再結成の日を迎えるのだが…。
果たして、4兄弟は往年の歌声と絆を取り戻せるのか？！

約20年ぶりの舞台出演が実現する水谷豊を筆頭に、心が躍る興奮の顔ぶれが勢揃い。
目が離せないステージにご期待ください。

作：マギー

演出：小林顕作

出演：水谷豊、段田安則、高橋克実、堤真一、
池谷のぶえ、峯村リエ、寺脇康文

マギー Magy

兵庫県出身。お笑い集団「ジョビジョバ」のリーダー。俳優、脚本家、演出家として活躍。近年の作品は、舞台「SLAPSTIKS」「世界は笑う」「歌うシャイロック」（出演）、「わたしの耳」（上演台本・演出）、「Retrial: 実験室」（作・演出）、「喜劇 老後の資金がありません」（脚色・演出）、TVドラマ「知ってるワイフ」「ワタシってサバサバしてるから」（出演）、「向かいのバズる家族」「#家族募集します」（脚本）、映画「燃えよ剣」「99.9- 刑事専門弁護士 -THE MOVIE」（出演）など。

小林顕作 Kensaku Kobayashi

東京都出身。学生時代より多くの劇団公演に出演し、1996年より「宇宙レコード」を主宰。俳優、演出家、脚本家として活動。また、1996年に「コンドルズ」の立ち上げから参加し、出演の他コント部門の脚本を担当。NHK Eテレ『みいつけた!』のオフロスキー役で全国的人気を博す。外部舞台への客演や演出も多く、演出作には「パタリロ!」「帝一の國」などがある。絵本のよみきかせを各地で開催するなど活動は多岐にわたる。

チケット情報

全席指定

S席 11,000 円、A席 8,000 円、B席 5,000 円（すべて税込）

[3月26日（日）一般発売開始]

企画・制作：シス・カンパニー

主催：サンライズプロモーション東京

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

運営協力：サンライズプロモーション大阪

バラ色ダンス 純粋性愛批判

主催

舞踊



日程：8月26日（土）、27日（日）全2回公演
会場：ノースホール



『バラ色ダンス 純粋性愛批判』序章（2022） © bozzo

60年代暗黒舞踏の初期代表作とクィアな美意識を 足がかりに、明日の舞踏（ダンス）を妄想する

パフォーマンスの幅広い可能性を追求し、国内外で高い評価を得る川口隆夫。これまで活動の核に据えてきたアイデンティティやジェンダーに関わる問題意識と、近年集中的にリサーチに取り組んでいる「舞踏」の二つを軸に新作に挑みます。

暗黒舞踏の創始者のひとり・土方巽の60年代の代表作「バラ色ダンス」を出発点に、60～70年代に欧米のゲイカルチャーを中心に隆盛を極めた〈Camp〉の感性を引きながら、歴史をノスタルジックに回顧するのでも神格化するのでもなく、現代の視点からクリティカルに検証し、21世紀のダンスに新たな可能性を切り拓きます。

構成・演出：川口隆夫

出演：川村美紀子、川口隆夫 ほか



© Hiroki Obara

川口隆夫 Takao Kawaguchi

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始し、演劇・ダンス・映像・美術をまたいでパフォーマンスの幅広い可能性を追求する。08年より私的パフォーマンスシリーズ『a perfect life』を展開し、13年に第5回恵比寿映像祭に参加。近年は舞踏に関するパフォーマンス作品『ザ・シック・ダンサー』（田辺知美と共に、12年）、『大野一雄について』（13年）を発表。後者はニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、18年にはパリ市立劇場でも上演された。

チケット情報

全席自由

一般 3,500 円、ユース（25 歳以下）2,000 円、18 歳以下 1,000 円 [6 月 17 日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

<他地域の公演>

東京公演 8月9日（水）～11日（金・祝）

那覇公演 9月2日（土）、3日（日）

goat 10 years anniversary スペシャルライブ

共催

音楽



日程：8月31日（木）

9月1日（金）全2回公演

会場：サウスホール



撮影：井上嘉和

電子音楽ソロプロジェクト「YPY」をはじめ、舞台作品「GEIST」や、太鼓芸能集団 鼓童とのコラボレーションなどで知られる音楽家・作曲家の日野浩志郎を中心に活動を行うバンド「goat」による、活動10周年を記念した2daysのスペシャルライブ。goatとgoatセレクションによる豪華アーティストが一夜限りの競演を行います。

goatはオリジナルメンバーの日野、田上敦巳、安藤暁彦に加え、MANISDRON、The Noupのドラマー岡田高史と、元鼓童の篠笛・パーカッション奏者である立石雷の5人編成。2023年の結成10周年に向け約8年ぶりとなる新作アルバムの制作も控えており、期待が高まるなかでの貴重なホール公演をお見逃しなく！

出演：goat ほか

goat

2013年に日野浩志郎を中心に結成したグループ。元はギター、サックス、ベース、ドラムの4人編成であるが、現在は楽曲によって楽器を持ち替えていく5人編成で活動している。極力楽器の持つ音階を無視し、発音させる際に生じるノイズ、ミュート音などから楽曲を制作。執拗な反復から生まれるトランスと疲労、12音階を外したハーモニクス音からなるメロディのようなものは都会（クラブ）的であると同時に民族的。https://goatjp.bandcamp.com/

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：株式会社鳥友会 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) 「金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima」

主催

演劇



日程: 11月4日(土)、5日(日)

全2回公演

会場: メインホール



© Michèle Laurent

京都賞受賞アーティスト、アリアヌ・ムヌーシュキン率いる伝説の劇団「太陽劇団」(フランス) コロナ禍の延期を経て、22年ぶり2度目の来日にして初の関西公演が実現！

創設59年目を迎えるフランスの太陽劇団は、演劇の可能性を広げる挑戦的な舞台で国際的評価の高い傑作を生み出し続けている世界有数の伝説的劇団のひとつです。ヒエラルキーを排した独特の劇団組織と方法論としての集団創作によって舞台芸術の創造を原理から捉え直し、古今東西の伝統芸能を参照することで舞台表現を革新し続けています。

太陽劇団の作品には、演出家であるアリアヌ・ムヌーシュキンが若き日に心酔したという日本の能や歌舞伎、文楽の影響が垣間見えます。本作『金夢島 L'ÎLE D'OR』も、ムヌーシュキンが佐渡島を始め様々な場所で大きなインスピレーションを受け構想したもので、2019年京都賞受賞のために日本滞在中の交流やリサーチを経て、コロナ禍の中でも日本の能楽師や演劇関係者とのワークショップが行われてきました。当初は2021年秋の来日公演が予定されていましたが、コロナ禍により中止を余儀なくされ、2年越しについに実現する運びとなりました。2021年11月に、パリにある劇団の本拠地「カルトゥーシュリ」で初演され、現地で話題を呼びました。22年ぶりの日本公演、そして初めてとなる関西での公演にぜひご注目ください。

作: 太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)
演出: アリアヌ・ムヌーシュキン (2019年京都賞受賞)
創作アソシエイト: エレーヌ・シクスー

音楽: ジャン＝ジャック・ルメートル
出演: 太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)

<あらすじ>

病床に伏す年配の女性コルネリアの夢の中では、日本の架空の島「金夢島 (かねむじま)」を舞台に、事件が起きようとしていた。金夢島の女性市長ヤマムラとその仲間たちは、地域振興のため島での国際演劇祭を計画している。一方、市長に対立する勢力は、島のリゾート開発を狙う外国人資本家らとともに、自然豊かな漁港を埋め立ててカジノを建設しようと目論んでいた。二つの思惑が交錯する中で、国際演劇祭は翻弄されていく。



© Pascal Gallepe

太陽劇団 Théâtre du Soleil

太陽劇団は1964年にフランスで設立。“集団創作”という独自スタイルで知られ、パリ郊外のカルトゥーシュリ (弾薬庫跡) を拠点に活動している。70年に上演されたフランス革命を題材とした『1789』は斬新な演劇手法で、世界的注目を集めた。古典から仮面劇、現代の難民問題を扱った作品まで幅広いレパートリーを持つ。2001年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場) で待望の初来日を果たし、アジアの人形劇、特に日本の文楽のエッセンスを大胆に取り入れた表現が話題となった。



© Inamori Foundation

アリアヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine

1939年パリ生まれ。59年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団A.T.E.P.(パリ学生演劇協会)を結成。64年にA.T.E.P.のメンバーを中心に太陽劇団を設立。以後半世紀以上に渡り、現代演劇の第一線で演出家として活躍している。80年代からのシェイクスピア作品、90年代からのギリシャ悲劇の連続公演でも話題を集め、さらにアジア演劇の身体的技法を取り入れた表現でも注目を浴びてきた。また映画『1789年』、『モリエール』といった映画監督作品もある。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞思想・芸術部門を受賞した。

チケット情報

全席指定

S席 8,000円、A席 6,000円、ユース（25歳以下）4,000円、18歳以下無料 [7月15日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共同招聘：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

共催：京都新聞

特別協賛：公益財団法人稲盛財団

<他地域での公演>

東京公演 10月20日（金）～26日（木） 東京芸術劇場 プレイハウス ※23日（月）休演

<関連企画>

太陽劇団作品の上映会・トーク 10月29日（日）京都芸術劇場 春秋座（京都芸術大学内）

太陽劇団による演技ワークショップ 11月1日（水）ロームシアター京都

KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2023

日程：9月30日（土）～10月22日（日）

会場：ロームシアター京都、京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO
ほか

主催

音楽

演劇

舞踊

美術・映像



京都発、実験的な舞台芸術を紹介するフェスティバル

KYOTO EXPERIMENT は、2010年より京都市内で開催している舞台芸術祭です。世界各地の「EXPERIMENT（エクスペリメント）＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指しています。演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的な表現が集まり、そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、新たな可能性をひらいていきます。

国内外の先鋭的なアーティストによる作品を上演する「Shows」、京都および関西地域をアーティストとともにリサーチし、未来の創作基盤につなげていく「Kansai Studies」、トークやワークショップなど鑑賞とは異なるフォーマットで、舞台芸術に限らず先端的な思考に触れる「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムで展開します。

チケット情報

席種・料金・発売日未定

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）]

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース

桑原裕子作・演出 新作

主催

演劇



日程：11月23日（木・祝）14:00 開演
会場：サウスホール



穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース『荒れ野』
(作・演出：桑原裕子 2019年再演) 撮影：伊藤華織

愛知県豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュースによる新作オリジナル作品が、ロームシアター京都に初登場します。出演に田中美里を迎え、脚本と演出は、PLAT の芸術文化アドバイザー・劇団 KAKUTA 主宰で劇作家・演出家・俳優として幅広く活躍する桑原裕子。PLAT プロデュースで作・演出を務めた『荒れ野』(2017年初演/2019年再演)は、第5回ハヤカワ「悲劇喜劇賞」、第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞をダブル受賞するなど、高い評価を得ています。

桑原裕子が描くのは、決して都会ではない、どこかの土地の片隅でひっそりと生きている市井の人々の姿。ひとつの出来事をきっかけに、悲しみ、怒り、諦め、喜びといった感情が登場人物たちの内面で渦巻くなか、人と人の交差のなかで未来へ踏み出す一步を見つけていくさまを立ち上げ、人生の“真実味とは”を問いかける。そのような心を揺さぶる物語です。

作・演出：桑原裕子（穂の国とよはし芸術劇場芸術文化アドバイザー・KAKUTA）

出演：田中美里ほか



撮影：相川博昭

桑原裕子 Yuko Kuwabara

東京都出身。劇作家・演出家・俳優。KAKUTA 主宰。

18年とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化アドバイザー就任、ワークショップや「文化祭 Art Platter」「市民と創造する演劇」などを手がける。俳優業のほかに、テレビ、ラジオ、映画の脚本、舞台への作・演出など、多方面で活動。19年に劇団作品『ひとよ』が白石和彌監督で映画化。映像脚本に昭和歌謡ミュージカル「また逢う日まで」など。その他近年の主な舞台に『徒花に水やり』（出演）『シブヤデアイマショウ』（出演）『ロビー・ヒーロー』（出演）『サンセットメン』（作演出）『閃光ばなし』（出演）など。09年 KAKUTA『甘い丘』第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞（脚本・演出）受賞。16年 KAKUTA『痕跡』第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。18年穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース『荒れ野』第5回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞受賞、読売文学賞戯曲シナリオ部門受賞。

チケット情報

全席指定

一般 4,000 円、ユース（25 歳以下）2,000 円、18 歳以下 1,000 円 [8 月 26 日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

企画制作：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

<他地域での公演>

豊橋公演 11 月 16 日（木）～ 19 日（日）穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

岡山公演 11 月 26 日（日）岡山芸術創造劇場 中劇場

東京公演 12 月 8 日（金）～ 17 日（日）東京芸術劇場 シアターイースト

*スケジュールは変更になる可能性があります

ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

2023年度参加アーティスト

①劇団不労社 ② PANCETTA

共催



日程：① 12月14日（木）～17日（日）
全6回公演（予定）
② 2024年2月1日（木）～4日（日）
全4回公演
会場：ノースホール

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム「KIPPU」。ロームシアター京都が京都芸術センターと協働し、若手アーティストの発掘と育成を目的とした新たな制作支援プログラムです。6年目となる2023年度は、劇団不労社（京都 / 大阪）、PANCETTA（東京）の2組を採択しました。

[過去の参加団体・アーティスト]

2018年度：ブルーエゴナク（北九州）、安住の地（京都）、akakilike（京都）

2019年度：お寿司（京都）、オル太（東京）

2020年度：中川裕貴（京都）、シラカン（神奈川）、スペースノットブランク（東京）

2021年度：福井裕孝（京都）、敷地理（東京）

2022年度：空間現代（京都）、努力クラブ（京都）

①劇団不労社 「MUMBLE ーモグモグ・モゴモゴー」 演劇



第七回公演『BLOW & JOB』撮影：肖藝凡

劇団不労社は関西を拠点に、アンダーグラウンドとハイカルチャー、コメディとホラーなど、対極にある要素を異種混濁的に取り入れながら、現代の歪な人間像を滑稽かつグロテスクに描く作劇が特徴の劇団です。今作はムラ社会的な閉鎖コミュニティを舞台に、共同体に内在する暴力性を描く「集団暴力シリーズ」作品群の集大成として位置付ける新作です。裏で違法な動物取引を行いながら、表向きはジビエ料理が名物の民宿という、二面的なファミリービジネスを営む一族の姿を通じ、現代における家族像の混沌を描き出します。タイトルの「MUMBLE」は、口いっぱいに〈モグモグ〉と頬張る様子、またそこから転じて〈モゴモゴ〉と不明瞭に声をくぐもらせる様子を指す英単語。〈食〉を創作の上でのキータームに据え、舞台芸術ならではの「生」の表現の可能性を追求します。

作・演出：西田悠哉

出演：荷車ケンシロウ、むらたちあき、永淵大河（以上、劇団不労社）ほか

主催：劇団不労社



撮影：肖藝凡

劇団不労社 Gekidan Furosyia

2015年に代表の西田悠哉が大阪大学を母体に旗揚げ、以後関西を中心に活動。虚構 / 現実、聖 / 俗、恐怖 / 笑い、センス / ナンセンス、冷静 / 情熱の間を漂流し、ニッチな市場開拓を試みる零細劇団。コント、バイオレンスムービー、オカルト、ヴェイパーウェイヴ、現代思想など、媒体を隔てた様々な考えや手法をサンプリングしながら、現代の歪な人間像を滑稽かつグロテスクに描く作劇を特色とする。令和3年度 次世代応援企画 break a leg、KAVC FLAG COMPANY2021-2022 選出。関西演劇祭2021にてベスト演出賞（西田）、アクター賞（荷車）受賞。2022年度より KAIKA アソシエイトカンパニーとして活動。

② PANCETTA 'PANCETTA LAB 2024 IN KYOTO' (仮) 演劇



撮影：市川唯人

東京を拠点とし、「第9回せんがわ劇場演劇コンクールグランプリ」「若手演出家コンクール 2018 最優秀賞」「第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門」と受賞が続く注目の若手パフォーマンスユニットの関西初公演。装置のないシンプルな空間で音・光・身体のみによる演出を用い、ナンセンスでシュールな独特の世界を描き、演劇とコントのはざまにある新感覚の“喜劇”を生み出します。今回の企画「PANCETTA LAB」では、出会い、研究、実験を目的とし、上演のみならず、稽古場の開放・生配信など過程を公開しながら創作していきます。稽古場での“何かが生まれるその瞬間”から観客にひらいていくことで、新たな演劇を立ち上げることを目指します。

※創作過程公開の詳細は決定次第カンパニー WEB サイトにてお知らせします。

構成・演出：一宮周平

出演：佐藤竜、瞳、一宮周平、他

音楽・ピアノ：加藤亜祐美（予定）

パーカッション：小田桐陽一（予定）

主催・企画・製作：PANCETTA



PANCETTA (パンチェッタ)

2013年より活動をスタートした、一宮周平によるパフォーマンスユニット。作品ごとにメンバーを集め上演する。人間の身体を駆使し、表現の可能性を示唆するとともに、装置のない空間に存在する音・光・身体がつくり出す時間により、観る者の想像を喚起し独特の世界へと導く。また日本特有の文化、言葉を多彩に活用し、類を見ない表現を追求する。生でこそ価値のあるものづくりを念頭に面白さを追求し続けている。近年では、外部劇団の演出、ホテルにて朗読劇イベント演出、アートスペースにて客席を設けず移動式に観覧する公演、子ども向けの童話とクラシックのコンサートなど、劇場内にとどまらず様々な空間での可能性を探求している。2018年、第9回せんがわ劇場演劇コンクール グランプリ、オーディエンス賞、俳優賞受賞。若手演出家コンクール 2018 最優秀賞および観客賞を受賞。2020年、第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門を受賞。シアターラムネクストジェネレーション vol.13 に選出。

チケット情報

①全席自由 一般前売 3,000 円（その他各種割引あり） [10月下旬 一般発売開始（予定）]

②全席自由 一般前売 3,000 円、当日 3,500 円、U22（前売・当日）2,500 円 [12月4日（月）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市で開催します。

ディミトリス・パパイオアヌー
「INK」

主催

舞踊

日程：2024年1月中旬 全4回公演
会場：サウスホール

© Julian Mommert

3度目の京都公演は、パパイオアヌー自身が出演する濃密なデュオ作品

ギリシャの振付家・演出家、ディミトリス・パパイオアヌーの作品を今年度も招聘します。今作「INK」は2020年のコロナ禍におけるロックダウンの最中に制作された作品で、今回の日本公演はロームシアター京都のみの単独上演となります。

出演者はパパイオアヌー自らを含めた2名というシンプルな構成ながら、彼らしい詩的で幻想的な表現が凝縮されている作品です。シュルレアリスムの雰囲気漂い、闇とファンタジーが共存する独自の世界観をふたたびお楽しみください。

ビジュアル・演出：ディミトリス・パパイオアヌー

出演：ディミトリス・パパイオアヌー ほか



© Julian Mommert

ディミトリス・パパイオアヌー Dimitris Papaioannou

演出・振付家。1964年アテネ生まれ。美術家として活動を始め、舞台芸術のアーティスト（演出家・振付家・美術家・パフォーマー）として知られるようになる前には、画家や漫画製作家として国際的に認められていた。NYでダンスを学び、86年に自身のカンパニーを設立。以後フィジカルシアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年アテネオリンピックの開閉会式を演出し、世界的に注目を集める。2018年5月にはヴッパタール舞踊団の委嘱により同カンパニーに『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。2019年には『THE GREAT TAMER』にて日本初来日を果たし、2021年6月初演の最新作『TRANSVERSE ORIENTATION』は2022年英国ローレンス・オリヴィエ賞の「最優秀新作ダンス作品」部門にノミネートされ、日本を含む世界20か国以上で上演された。

チケット情報

全席指定

一般（1階席）6,000円、一般（2階席）5,000円、ユース（25歳以下）3,000円、18歳以下1,000円 [9月23日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

■ 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023 「魔笛」

主催

音楽

日程：10月26日（木）、27日（金）
両日 13:00 開演
会場：メインホール



2018年公演より 撮影：寺司正彦

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」では、2016年のリニューアルオープン以降、「フィガロの結婚」「蝶々夫人」「魔笛」「ドン・パスクワレ」と上演を重ねてきました。2023年度の上演演目は、新国立劇場のレパートリー作品として人気の高い「魔笛」を再び上演。日本を代表する一流の歌手陣、京都市交響楽団の演奏でお贈りします。現代アートの巨匠・ウィリアム・ケントリッジが手掛ける人物の内面を鮮やかに描写する演出が、高校生の想像力を刺激し、オペラへの興味を喚起します。

演目：モーツァルト「魔笛」（全2幕 ドイツ語 上演／日本語 字幕付）
演出：ウィリアム・ケントリッジ
管弦楽：京都市交響楽団

チケット情報

2,200 円（高校生および引率者〔学校団体〕）

＊残席がある公演日に限り、高校生以下および一般への事前販売を行います（料金：高校生以下 2,200 円、一般 4,400 円）
[発売日未定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社

■ 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XX 子どものためのオペラ 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」より ローム クラシック スペシャル

主催

音楽

日程：2024年3月
会場：メインホール



© 大窪道治

毎年恒例となった、京都府内の小学生を対象としたオペラ公演です。本公演と同じ舞台上で繰り広げられる、迫力あるオペラの上演（一部抜粋）は、オペラ鑑賞が初めての子どもたちも、楽しく体験出来る機会となっています。

音楽監督：小澤征爾
指揮：ディエゴ・マテウス
演出：デイヴィッド・ニース
装置・衣裳：ロバート・パージョーラ
管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ
ほか

チケット情報

京都府内の小学生 6 年生を対象にした招待公演です。学校単位での申込のみとなります（夏以降に募集開始予定）。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン
京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
共催：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社
企画・制作：ヴェローザ・ジャパン

劇場の学校

主催 演劇 舞踊 美術・映像

日程：7～8月
※オープンクラスの一部は11月



© 金サジ (umiak)

2019年度からスタートしたロームシアター京都の「劇場の学校」。5年目は「演劇コース A（戯曲）・B」「ダンスコース A・B」「メディア表現コース」のコースを設け、国内外の第一線で活躍するアーティスト等が講師を務めます。各分野の表現について、参加者自身が身体を動かし、考え、ともに「創る」ことに取り組みます。また、コースに関連した多様なオープンクラスも実施します。

<コース>

演劇コース A（戯曲）：土田英生（劇作家・演出家・俳優／MONO 代表）

演劇コース B：和田ながら（演出家／したため主宰）

ダンスコース A：アオイヤマダ（表現者）

ダンスコース B：倉田翠（演出家・振付家・ダンサー／akakilike 主宰）

メディア表現コース：山城大督（美術家・映像作家）

<オープンクラス>

木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）

高谷史郎（アーティスト／ダムタイプ）

中島那奈子（ダンス研究／ダンスドラマトゥルク）

吉岡洋（美学者、京都芸術大学文明哲学研究所教授）

ロームシアター京都スタッフによる音響照明講座



土田英生 Hideo Tsuchida

劇作家・演出家・俳優／MONO 代表

愛知県出身。1989年に「B級プラクティス」（現MONO）結成。1990年以降全作品の作・演出を担当する。1999年『その鉄塔に男たちはいるという』で第6回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。2001年『崩れた石垣、のぼる鮭たち』（文学座）で第56回芸術祭賞優秀賞を受賞。2003年文化庁の新進芸術家留学制度で一年間ロンドンに留学。近年は劇作と並行してテレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。その代表作に、映画『約三十の嘘』、『初夜と蓮根』、テレビドラマ『崖っぷちホテル！』『斉藤さん』など。2020年には自身が監督・脚本を務めた映画『それぞれ、たまゆら』が公開された。



Photo: Yuki Moriya

和田ながら Nagara Wada

京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）芸術学部映像・舞台芸術学科卒業、同大学大学院芸術研究科修士課程修了。2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。主な作品に、作家・多和田葉子の初期作を舞台化した『文字移植』、妊娠・出産を未経験者たちが演じる『擬婉』がある。美術、写真、音楽、建築など異なる領域のアーティストとの共同制作も多数。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」始動。NPO 法人京都舞台芸術協会理事長。セゾン文化財団 2021-22 年度セゾン・フェロー I。



© hisashi ogawa

アオイヤマダ Aoi Yamada

東京 2020 オリンピック閉会式にてソロパフォーマンスを披露。ひびのこづえとの作品 "ROOT: 根" を各地で公演。舞台では KAAT 神奈川芸術劇場『星の王子さま』、ダムタイプ『2020』等に出演。GUCCI ショートフィルム『KAGUYA by Gucci』をはじめ、ハイブランドの広告に起用される。Netflix シリーズ『First Love 初恋』に古森詩役で出演。楽曲制作も並行して行い、横浜市身体障害者団体会『見方を味方に』の楽曲などを制作。出身地の長野県松本市から文化奨励賞を授与。2022 年善光寺での奉納パフォーマンスを行った。昭和歌謡曲にのせて踊った # 野菜ダンスも SNS で話題となった。



Photo: ayakaendo

倉田翠 Midori Kurata

1987 年三重県生まれ。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）映像・舞台芸術学科卒業。3 歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都を拠点に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。2016 年より、倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体、akakilike（アカキライク）の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。セゾン文化財団セゾン・フェロー I。



Photo: Nobutada OMOTE

山城大督 Daisuke Yamashiro

美術家／映像作家。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない〈時間〉を作品として展開する。主な展覧会に森美術館「六本木クロッシング 2016 展：僕の身体、あなたの声」。子どもと共創するプロジェクト「子どもと大人と社会の現場（NENNE | ねんね）」を 2018 年より始動。京都芸術大学専任講師。ロームシアター京都では、「プレイ！シアター in Summer 2018」にて、映像や音、光による上演型インスタレーション《風をたべる、光をのむ》を発表し、第 23 回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品受賞。「劇場の学校」は 2021 年・2022 年に引き続き講師を務める。

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたし - 劇場の仕事 -

主催

学び

日程：通年



主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

ロームシアター京都と京都市ユースサービス協会の連携事業として実施し、2023年度で7年目となります。本事業は、15～30歳の若者を対象に、ロームシアター京都を職業体験の場として活用したもので、現役職員から制作基礎知識等を学ぶ講座や、実際の公演の観客誘導や受付、創作現場の稽古場サポート等の体験を通して、劇場の仕事に触れます。これまでの参加者からは「チームの情報共有はお客さまの満足感につながると知った」「どのスタッフも細かいところまでこだわりぬいて舞台が作られることに感動した」などの感想を得ました。このプログラムを通して、参加者が、劇場や舞台芸術の現場にとどまらず、自分のキャリアデザイン～仕事を通じて実現したい将来像やそれに近づくプロセスを意識してもらうことを目的にしています。

リサーチプログラム

主催

学び

日程：通年

※ 2024年3月に最終報告会を予定



ロームシアター京都では、プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。2023年度も、重点テーマである「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」、「舞台芸術のアーカイヴ」、そして自由テーマのリサーチャーを募集します。

メンター：吉岡洋（京都芸術大学文明哲学研究所教授）

若林朋子（立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ホリデー・パフォーマンス

日程: Vol.12 展示期間:5月29日(月)～6月4日(日)
パフォーマンス:6月4日(日) 時間未定

Vol.13 11月(予定)

Vol.14 2024年2月

会場: パークプラザ3階共通ロビー ほか

主催

演劇

音楽

美術・映像



Photo: Takeru Koroda

音楽をはじめ、美術や演劇など多様なジャンルのパフォーマンスを無料でお楽しみいただけるシリーズです。日常で気軽にアートに触れる機会を創出します。

アーティスト

Vol.12 西條茜

伝統的な陶芸の手法や構造を独自に再解釈しながら、狭義の陶芸の枠組みを越え「身体性」をテーマに制作するアーティスト・西條茜の陶彫作品を1週間展示します。最終日には3人のパフォーマーが作品を巡り、声や息を使って、新たな形のコミュニケーションを実践するサウンドパフォーマンスを行います。

Vol.13 未定

Vol.14 高橋耕平



西條茜 Akane Saijo

2014年京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻陶磁器分野 修了。2013年ロンドン ロイヤルカレッジオブアートへ交換留学。2020年度京都市芸術文化特別奨励者認定者。2022年度京都市芸術新人賞受賞者。陶磁器素材の特徴ともいえる内部の空洞と表面の艶やかな質感から「身体性」をキーワードに、陶彫作品及びそれらに息や声を吹き込むサウンドパフォーマンスを発表している。また一方で世界各地にある窯元などに滞在し、地元の伝説や史実に基づいた作品も制作している。2021年よりアートユニット TÔBOE としても活動。



高橋耕平 Kohei Takahashi

アーティスト。ドキュメンタリー映像、行為の記録、アーカイブ資料に自らの声や身体を介入させ、他者や史実との対話を巡る作品を制作する。主な展覧会に「コレクションとの対話:6つの部屋」(京都市京セラ美術館、京都、2021)、「切断してみる。―二人の耕平」(豊田市美術館、愛知、2017)、個展「高橋耕平～街の仮縫い、個と歩み」(兵庫県立美術館、2016)などがある。京都市を拠点に活動。

撮影: 堀井ヒロツグ

チケット情報

無料、申込不要

主催: ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

プレイ！シアター in Summer 2023 オープンディ

主催

音楽

演劇

舞踊

美術・映像

日程：8月11日(金・祝)～13日(日)、
8月16日(水)、17日(木)

会場：全館



(左3点) 撮影：山地憲太 (右1点) 「WONDER WATER」© 出口敏行

今年も開催！家族や友達と楽しめる、ロームシアター京都の夏休み恒例イベント

“劇場で遊ぼう”を合言葉に、毎年たくさんの子どもたちが集まる大好評企画「プレイ！シアター」。今年は、音楽・ダンス・落語などのパフォーマンスプログラムを楽しむ2日間(8/11、12)と、のんびりと劇場で1日を過ごすことのできる「Relaxing time and space」(8/13)、舞台のスタッフワークを体験できるワークショップ(8/16、17)を開催。恒例のワークショップや楽器体験も実施します。

チケット情報

無料、申込不要(予定)

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 特別協賛：ローム株式会社

<関連企画>

プレイ！シアター in Summer 2023 ステージプログラム アンディ・マンリー 新作公演

日程：7月中旬

→P.4 参照

コミュニティ

京響プログラム

プレイ！シアター in Summer 2023 オープンディ 京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート

主催

音楽

日程：8月11日(金・祝)

11:00/14:00 開演

会場：メインホール



撮影：山地憲太

毎年恒例となった、0歳から参加可能な、京都市交響楽団によるオーケストラコンサート。今年は、2020年にオンラインで上演した京都市交響楽団0歳からの夏休みコンサート「ステイキャッスルはもううんざり！」をもとに、今回新制作の演出でリアル開催します。

指揮：和田一樹

オーケストラ：京都市交響楽団

脚本：松宇拓季、永野宗典、大歳倫弘(ヨーロッパ企画)

演出：大歳倫弘

チケット情報

全席指定

小学生以上800円、未就学児無料 [6月24日(土)一般発売開始]

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 特別協賛：ローム株式会社

ロームシアター京都×京都市文化会館 5 館連携事業 「シアターデビュー！」促進プログラム

主催

日程：8～9月

会場：京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、
京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、
京都市右京ふれあい文化会館

ロームシアター京都と京都市内の文化会館 5 館が協働し、未就学児向けの作品上演を行います。地域の子どもたちが初めて劇場に足を運ぶ＝“シアターデビュー！”の機会と、おとなと子どもが一緒に楽しめる場をつくることで、地域コミュニティと劇場の結びつきを深めます。

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市

「およげ！ショピニアーナ」茨木市公演

舞踊

日程：7月22日（土）、23日（日）全4回公演

会場：茨木市福祉文化会館



© yuki moriya

2022年9、11月にロームシアター京都×京都市文化会館 5 館連携事業「シアターデビュー！」促進プログラムで初演した「およげ！ショピニアーナ」を、大阪・茨木市で再演します。ダンサーの中間アヤカが構成を務めたダンス・パフォーマンス公演。ピアノの生演奏、カラフルな屋台と美術、あっと驚く遊びの仕掛け…おとなも子どもも一緒になって、観て／きいて／参加するダンス・パフォーマンスで、海を感じながら、夏のひと時を一緒に過ごしましょう。

構成：中間アヤカ
美術：TAIYA（下寺孝典、中澤ふくみ）
出演：佐藤健太郎、垣尾優、中間アヤカ
ピアノ演奏：長阪花音

製作：ロームシアター京都
主催：公益財団法人茨木市文化振興財団

OKAZAKI PARK STAGE 2023

主催

音楽

演劇

舞踊

日程：9月30日（土）～10月22日（日）（予定）

会場：ローム・スクエア



Photo: Toshiaki Nakatani

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」を会場に今年も秋の賑わいを創出します。毎年おなじみの岡崎地域を中心とした市民ステージや、アーティスト小山田徹との焚き火等を開催します。



小山田 徹 Toru Koyamada

アーティスト。1961年鹿児島に生まれる。京都市立芸術大学日本画科卒業。84年、大学在学中に友人たちとパフォーマンスグループ「ダムタイプ」を結成。ダムタイプの活動と平行して90年から、さまざまな共有空間の開発を始め、コミュニティセンター「アートスケープ」「ウィークエンドカフェ」などの企画をおこなうほか、コミュニティカフェである「Bazaar Cafe」の立ち上げに参加。日本洞窟学会会員。

チケット情報

無料、申込不要

企画製作：ロームシアター京都 主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

リージョナルシアター事業

主催

学び

日程：通年

会場：京都市内の高齢者施設

ロームシアター京都が企画・実施するアウトリーチ事業です。演出家の多田淳之介氏を講師に迎え、演劇の手法を使ったワークショップを企画・実施します。京都市内の高齢者施設へ出向き、地域の人々に向けたワークショップを行います。公共劇場として、創造性豊かな地域づくりへの貢献を目指しています。



© 平岩亨

多田淳之介 Junnosuke Tada

1976年生まれ。神奈川県・千葉県出身。演出家。東京デスロック主宰。現代を生きる人々の当事者性をテーマに古典から現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。地域・教育機関での子どもや演劇を専門としない人との創作、ワークショップ、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を軸にボーダーレスに活動する。2010年より、富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3期9年間務める。2014年『ガモメカルメギ』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。東京芸術祭ファームディレクター。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。おもな演出作品に『再生』『ガモメカルメギ』『ハッピーな日々』『BEAUTIFUL WATER』など。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

共催：一般財団法人地域創造（リージョナルシアター事業）

“いま”を考えるトークシリーズ

主催

学び

日程：年2回

会場：パークプラザ3階共通ロビー

多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招くトークシリーズです。

チケット情報

無料、事前申込優先

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

WEB マガジン「Spin-Off（スピノフ）」

学び

月2回更新中

SPIN-OFF

by ROHM Theatre Kyoto



月2回更新中

<https://rohmtheatrekyoto.jp/spin-off/>

ロームシアター京都の自主事業（劇場自らが企画あるいは招聘し、主催または共催としておこなう事業）の上演・実施において、企画の趣旨や魅力、それらの背景を紹介するプラットフォームとしてWEBマガジンを発行しています。

作品に関するインタビューやコラム、上演した公演やトークイベントのレポートやレビューを掲載するほか、社会と芸術にまつわる多様なテーマに基づくコラムも掲載します。上演の場所としてだけでなく、思考するメディアとしてのロームシアター京都のすがたを蓄積していきます。また、若手の書き手による公演レビューの執筆・掲載にも取り組み、あらたな出会いを通して関西圏の舞台芸術シーンにおける批評の活性化をめざします。

機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」

学び

WEB マガジン「Spin-Off」内にて連載中



<https://rohmtheatrekyoto.jp/spin-off/assembly/>

ロームシアター京都自主事業として2017年度より発行している機関誌。2021年よりWEB版としてリニューアルしました。2021年より継続して3つの主題「ひとり」「ふつう」「知らない」をかかげ活動し、多彩な記事を掲載しています。

2022年に公開した記事

- ・[ASSEMBLY | 知らない] 対談：千葉雅也 × 亜鶴 知っているけど知らない、新しい他者の身体を探して
- ・[ASSEMBLY | ひとり] ひとりで立つ賑やかな台所——食材と戯れ遊ぶレシピ | 文：小松山聡子
- ・[ASSEMBLY | ふつう] 田中美咲インタビュー 切実に「ふつう」に向き合うために
- ・[ASSEMBLY | ひとり] 家族というつながり | 文：村井理子
- ・[ASSEMBLY | ふつう] 「ふつう」の複数性について | 文：下地 ローレンス吉孝
- ・[ASSEMBLY | 知らない] 能條桃子インタビュー | 風通しのよい社会を、私たちの手でつくるほか

編集：春口滉平、小倉由佳子・松本花音（ロームシアター京都） 発行：ロームシアター京都

アセンブリープログラム



ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。“アセンブリー”という名称には、京都会館の英語表記「Kyoto Assembly Center」にある、「集会」や「会議」という開館時に込められた思いを引き継ぎつつ、幅広い教養や知識を気軽に得られる大学等の課外授業のイメージを込めています。

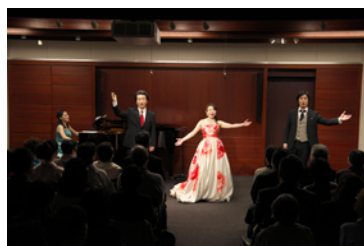
アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会、トークイベントなどのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

【過去開催したアセンブリープログラムの一例】

- ・マルシェ（京都岡崎 つむぐ ほか）
- ・ワークショップ（京陶人形の絵付け体験ワークショップ ほか）
- ・絵本のおみきかせ
- ・トークイベント
- ・展示企画
- ほか

音楽総合体験施設 ミュージックサロン

場所 パークプラザ 3 階



ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた 120 インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナーなど随時開催しています。

入場無料 ※一部整理券が必要な場合あり

共同運営：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
共催：ローム株式会社

アクセシビリティ情報

当館では以下の通りアクセシビリティに関するサポート・設備をご用意しています。
ご利用については下記【お問合せ先】までお問合せください。

Ⅰ 観劇サポート

ロームシアター京都自主事業では、お客様の観劇に際して以下の観劇サポートを実施いたします。

対象公演の各情報欄にマーク（  ）を記しています。

みえない・みえづらいお客様へ

音声ガイド



音声ガイドとは、舞台の美術や照明、また登場人物の動きや身につけているものについてリアルタイムで解説し、その解説音声を副音声として利用者様にお届けするシステムです。舞台の生音を耳で聞きながら、受信機からの副音声を同時に聞いていただきます。

きこえない・きこえづらいお客様へ

ポータブル字幕機



ポータブル字幕機では、出演者が発話するセリフを文字としてご覧いただけます。セリフ以外にも効果音や物音、音楽が流れているかなども場面に合わせて表示されます。舞台とお手元のポータブル字幕機、両方を見ながらご鑑賞ください。

ヒアリングループ



ヒアリングループとは、舞台付近で集音した音を送信機から専用受信機へ送ることで、舞台の音をクリアに聞くことができるシステムです。磁気コイル付補聴器・人工内耳を装用の方は、専用受信機がなくても送信機からの音を受信していただけます。

Ⅰ 施設におけるバリアフリーサービス

バリアフリーに配慮した設備とサービスをご用意しています。

車椅子を利用されるお客様へ

メインホール、サウスホールには、車椅子をご利用のまま観覧できる車椅子スペースがございます。劇場備え付けの車椅子のお貸出しも可能です。

福祉専用駐車場

車椅子をご利用の方や移動が困難な方などにご利用いただける福祉専用駐車場（2台）がございます。

多目的トイレ

館内各フロア（5カ所）およびホール内ホワイエにございます。

設備：オストメイト対応、おむつ交換台、ベビーチェア、多目的シート（約150cm×60cm、1階プロムナード北側の多目的トイレのみ）

Ⅰ 託児サービス



ロームシアター京都自主事業では、小さなお子さまをお連れの方も安心してゆっくりと舞台をお楽しみいただけるよう、託児サービスを実施いたします。対象公演の各情報欄にマーク（）を記しています。

対象年齢：3か月～就学前

料金：有料1,000円（税込）／1公演／お子さま1人あたり ※一部料金の異なる公演がございます。

※お申込・詳細についてはロームシアター京都 WEB サイト（各公演ページをご確認ください）

アクセシビリティに関する
お問い合わせ

ロームシアター京都

Tel. : 075-771-6051 Fax : 075-746-3366 Email : accessibility@rohmtheatrekkyoto.jp

Fax/Email の場合、以下の通りお知らせください。内容確認後、こちらからご連絡いたします。

件名：「アクセシビリティについて」

①お名前 ②ご連絡先 ③お申込・ご質問内容